



毎日、発明する会社

2019年4月期

第1四半期 決算説明資料

フリービット株式会社

2018年9月7日

1. エグゼクティブ・サマリー . . . 3
2. 2019年4月期 第1四半期 連結業績 . . . 10
3. 2019年4月期 第1四半期期 セグメント別業績及び事業進捗 . . . 24
4. 2019年4月期 連結業績進捗 . . . 36

## 資料内略称について

略称	社名及び説明
FB	フリービット(株)=当社
FBG	フリービットグループ
DTI	(株)ドリーム・トレイン・インターネット=完全子会社
FBEPH	(株)フリービットEPARKヘルスケア=子会社
FIV	フリービットインベストメント(株)=完全子会社
IJK	(株)医療情報基盤=完全子会社
TM	トーンモバイル(株)=持分法適用関連会社
FS	(株)フルスピード=東証二部上場の子会社
FSG	フルスピードグループ
FI	(株)フォーイト=(株)フルスピードの完全子会社
CR	(株)クライド=(株)フルスピードの完全子会社
GP	(株)ギガプライズ=名証セントレックス上場の子会社
GPG	ギガプライズグループ
FM	(株)フォーメンバーズ=(株)ギガプライズの子会社
ALC	(株)アルク(9月28日子会社化予定)

略称	セグメント名
BB	ブロードバンド事業
MB	モバイル事業
AT	アドテクノロジー事業
CL	クラウド事業
HT	ヘルステック事業
ETC	その他

# 1. エグゼクティブ・サマリー

---

- ・アルクの子会社化に伴う増収増益(第3四半期以降の業績に寄与)
- ・トーンモバイルへの追加出資に伴う営業外費用(持分法による投資損失)の計上

(単位：百万円)	2019年4月期 修正通期予想	2019年4月期 通期予想	増減額	増減率
売上高	<b>48,000</b>	45,000	+3,000	+6.7%
営業利益	<b>2,750</b>	2,500	+250	+10.0%
経常利益	<b>2,400</b>	2,350	+50	+2.1%
親会社に帰属 する当期純利益	<b>250</b>	250	0	0.0%

## トーンモバイルへの追加出資について

- ・トーンモバイル独自のユーザープラットフォーム「TONE Platform」事業開始によるアルパイン(株)へのサービス提供など、将来的な同社収益を見込み出資を実施

## アルクの株式取得（子会社化）

8月21日の取締役会にて決議。9月28日に株式譲渡実行を予定



2018年8月21日

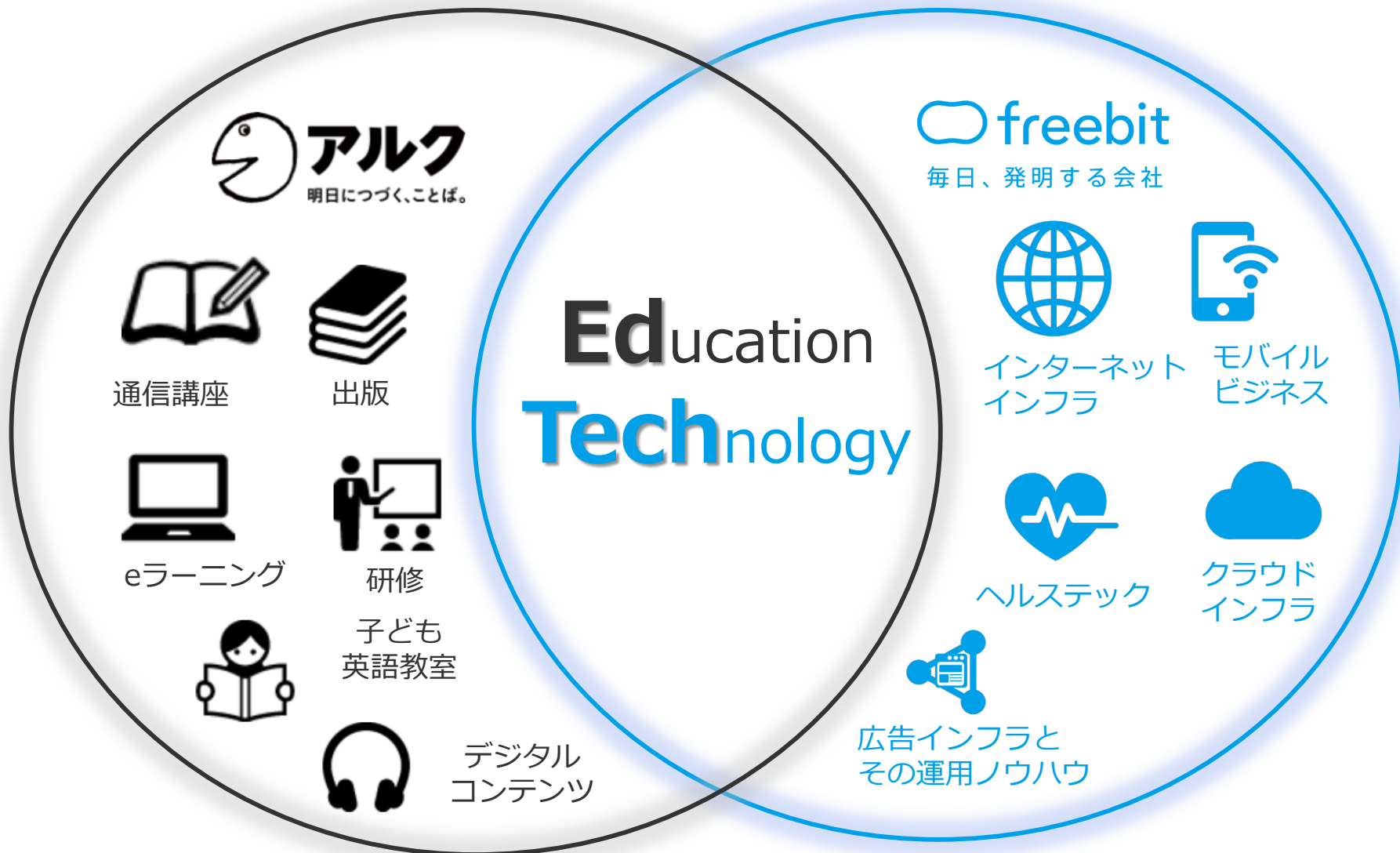
各 位

会社名	フリービット株式会社 (コード番号 3843 : 東証第一部)
本社所在地	東京都渋谷区円山町3番6号
代表者	代表取締役社長 田中 伸明
問合せ先	執行役員グループ経営管理本部長 和田 育子
電話番号	03-5459-0522 (代表)
	(URL <a href="http://www.freebit.com">http://www.freebit.com</a> )

### 株式会社アルクの株式の取得（子会社化）に関するお知らせ

当社は、2018年8月21日開催の臨時取締役会において、以下のとおり、株式会社アルク（以下、「アルク」）の株式を取得し、子会社化することについて決議いたしましたので、お知らせいたします。

## アルクとフリービットグループのシナジーによる事業領域の拡大



## AI

- ・ 学習品質の向上
- ・ ディープラーニング



## ビッグデータ

- ・ 学習効率向上支援



EdTech



## IoT

- ・ 学習環境の改善
- ・ モバイルラーニング



## Ad Technology

- ・ 新規ユーザーの獲得

## 顧客基盤

- ・ 利用者拡大
- ・ ソーシャルラーニング



## 2020年教育改革に伴い、英語学習に関する多様なニーズが顕在化

アルクの有する多様なサービスに対するニーズの高まり

### 2020年度英語教育改革概要

小中高を一貫した指標で目標設定  
✓ 高校卒業時にCEFR\*1のA2～B1以上

#### 主なポイント

- ✓ 小学3-4年生で「英語必修化」
- ✓ 小学5-6年生で「英語教科化」
- ✓ 中高の英語事業を「英語実施」
- ✓ 大学入学共通テストで4技能評価、民間・検定試験活用

#### 大学

- ✓ CLIL\*2授業を導入する学部  
の増加

### 語学市場への影響

#### 学習開始年齢の低年齢化

- ✓ 幼児・子供向け語学学習市場が拡大。一方で、英語の指導教員不足が課題

中高以上では、「話す、書く」能力の向上に向けた教材・学習・評価法に対するニーズが顕在化

大学以上では、ESP\*3の学習ニーズ拡大

- ✓ 専門科目を英語で受講できるレベルまで学生を引き上げるための教材・学習方法が必要

### アルクの機会

#### 中学生以下

- ✓ 児童英語教材提供
- ✓ 児童英語指導者の育成
- ✓ 教職員の英語力向上

#### 高校（中学）

- ✓ 4技能向け副教材提供
- ✓ 教職員の英語力向上

#### 大学

- ✓ 正課授業受託
- ✓ ESP英語教材及びコンテンツ提供
- ✓ 高度化する英語授業実施に向けたFD研修
- ✓ 教職員の英語力向上

### 2018年5月 改正学校教育法成立

小学校、中学校、高等学校等においてデジタル教科書が使用可能に

※この法律は、2019年4月1日から施行

\*1 CEFR ((セファール) : Common European Framework of Reference for Languages (ヨーロッパ言語共通参照枠)

\*2 CLIL : Content and Language Integrated Learning (内容言語統合型学習)

\*3 ESP : English for Specific Purposes (特定の目的のための英語 : 専門的な英語)

### フリービットの機会

ICT教育環境の提供



## トーンモバイル、独自のユーザープラットフォームを活かした「TONE Platform」事業を開始

第1弾として、テレマティクス / カーライフスタイル分野でアルパインと提携

アルパインマーケティングが、「子どものお迎え」を始めとした子育て世代のカーライフを応援する「**おむかえアシスト**」を本日より提供開始。アルパインのカーナビとも連携

Press Release

**TONE**  
MOBILE

2018年9月7日

トーンモバイル株式会社

トーンモバイル、独自のユーザープラットフォームを活かした「**TONE Platform**」事業を開始。  
第一弾として、テレマティクス / カーライフスタイル分野でアルパインと提携  
～アルパインマーケティングが、「子どものお迎え」を始めとした子育て家族のカーライフを応援する  
「**おむかえアシスト**」を本日より提供開始。アルパインのカーナビとも連携～

トーンモバイル株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長 CEO 石田 宏樹、以下「トーンモバイル」)が展開するスマートフォンサービス「トーンモバイル」は、この度、トーンモバイルのユーザープラットフォームを、スマートフォンを利用した新サービスの提供を行う企業・団体に対してオープン化することで、より迅速かつ的確な開発/分析/テストを可能とする「**TONE Platform**」事業を開始いたします。

## 2. 2019年4月期 通期連結業績

---



連結業績

- ・売上高は、マンションインターネット及びアドテクノロジー事業の順調な推移に加え、ヘルステック事業の成長により、前年同期比10.5%増を達成
- ・営業利益は、モバイル事業の利益率改善による黒字化とヘルステック事業の投資効果の結実により前年同期比64.0%増を達成



ブロードバンド事業

- ・マンションインターネットは継続し拡大
- ・販売管理費増と既存固定網サービス減少により減益



モバイル事業

- ・キャリア卸値減に伴う当社提供価格の値下げにより売上高は微減
- ・MVNEサービスの利益率改善、サービスラインアップ再構築及びIP電話サービスの売上増加により黒字化



ヘルステック事業

- ・FBEPHの成長により、売上高は前年同期比249.6%増を達成
- ・FBEPHの順調な推移を鑑み、事業拡大に向けた投資を継続
- ・IJKのビジネスモデル転換を実行

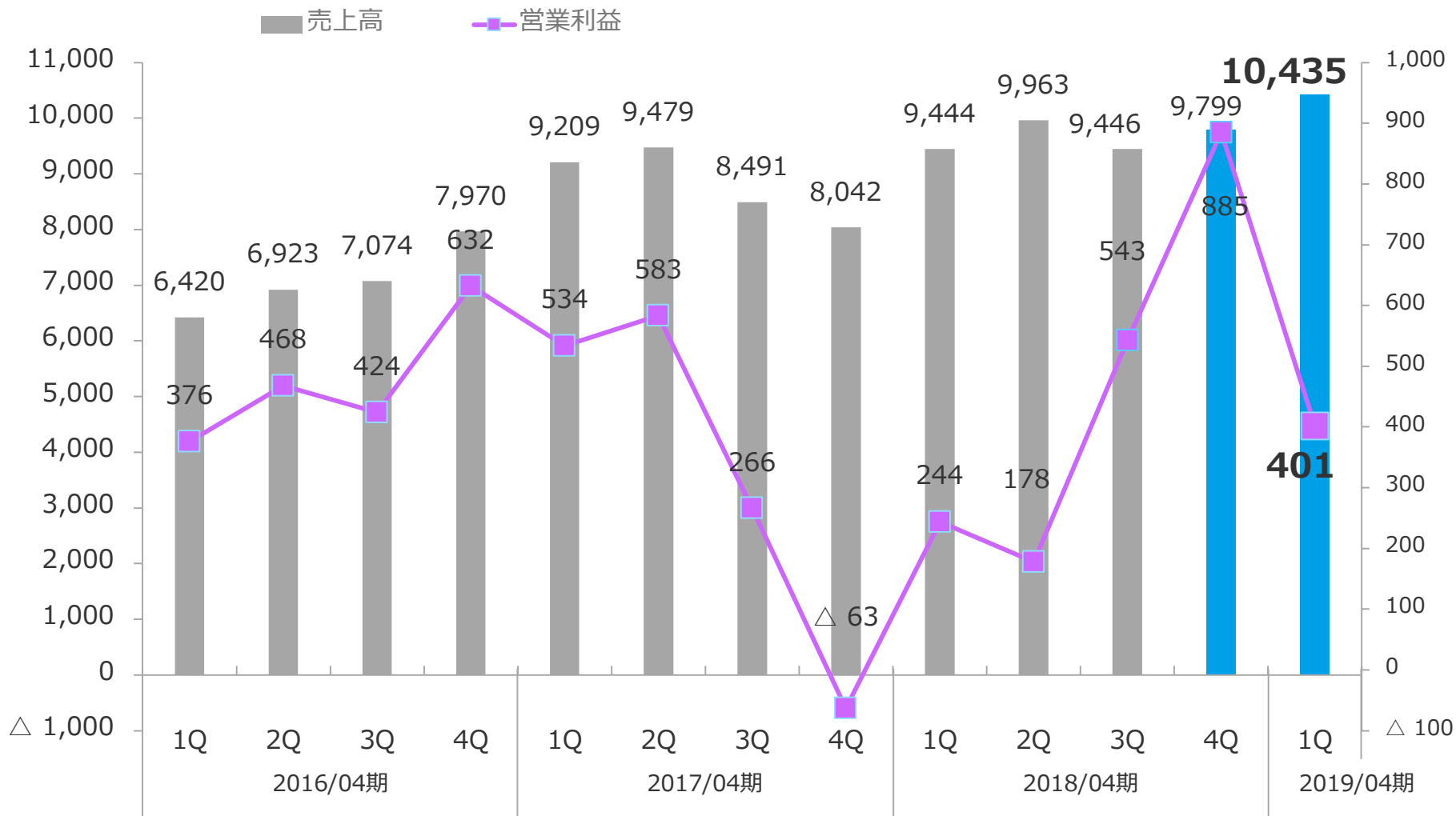
(単位：百万円)	19年04期 第1四半期	18年04期 第1四半期	増減額	増減率
売上高	<b>10,435</b>	9,444	+ 991	+10.5%
EBITDA	<b>709</b>	615	+ 94	+15.4%
営業利益	<b>401</b>	244	+ 156	+64.0%
経常利益	<b>172</b>	11	+160	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△ <b>147</b>	△306	+ 158	—
1株当たり純利益	△ <b>6円66銭</b>	△13円81銭	+ 7円15銭	—

**2019年4月期第1四半期連結業績は、前年同期比で売上高10.5%増  
モバイル事業及びFBEPHの堅調な推移により営業利益64.0%増**

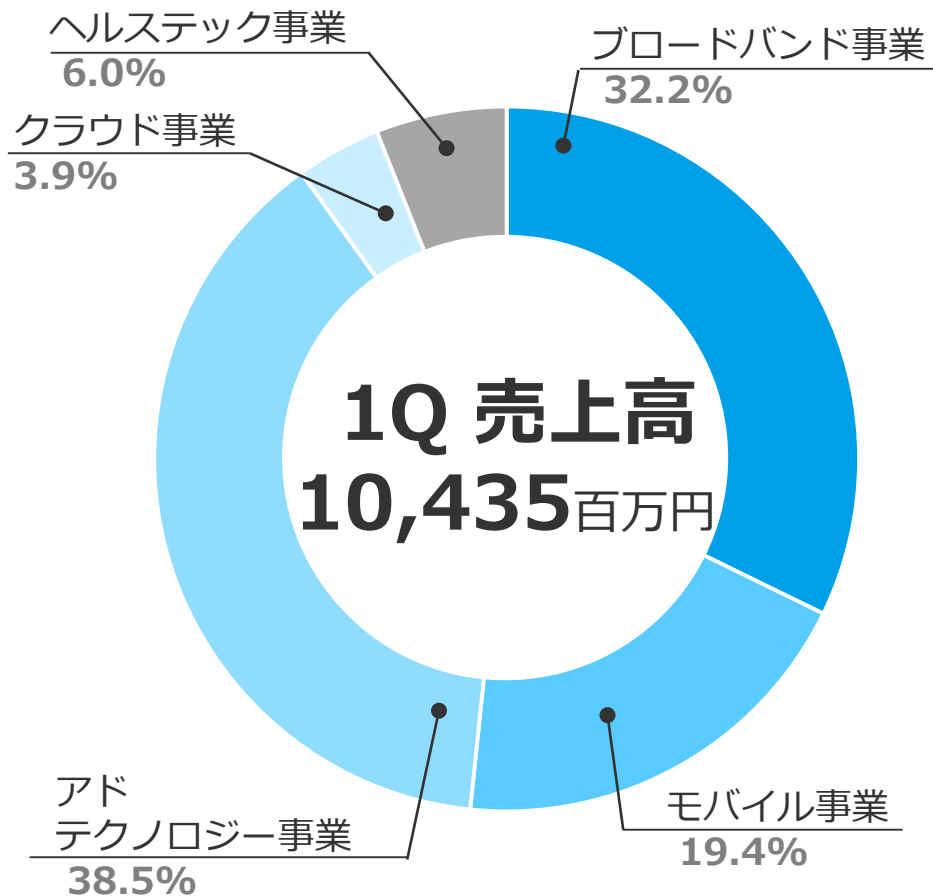
- ・売上高：マンションインターネット及びヘルステック事業の拡大により増収
- ・営業利益：モバイル事業の利益率改善やヘルステック事業拡大により前年同期比64.0%増
- ・経常利益：営業利益増等により、前年同期比160百万円増
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益：経常利益増等により前年同期比158百万円増

## 前年同期比で売上高は10.5%増、営業利益は64.0%増を達成

(単位：百万円)



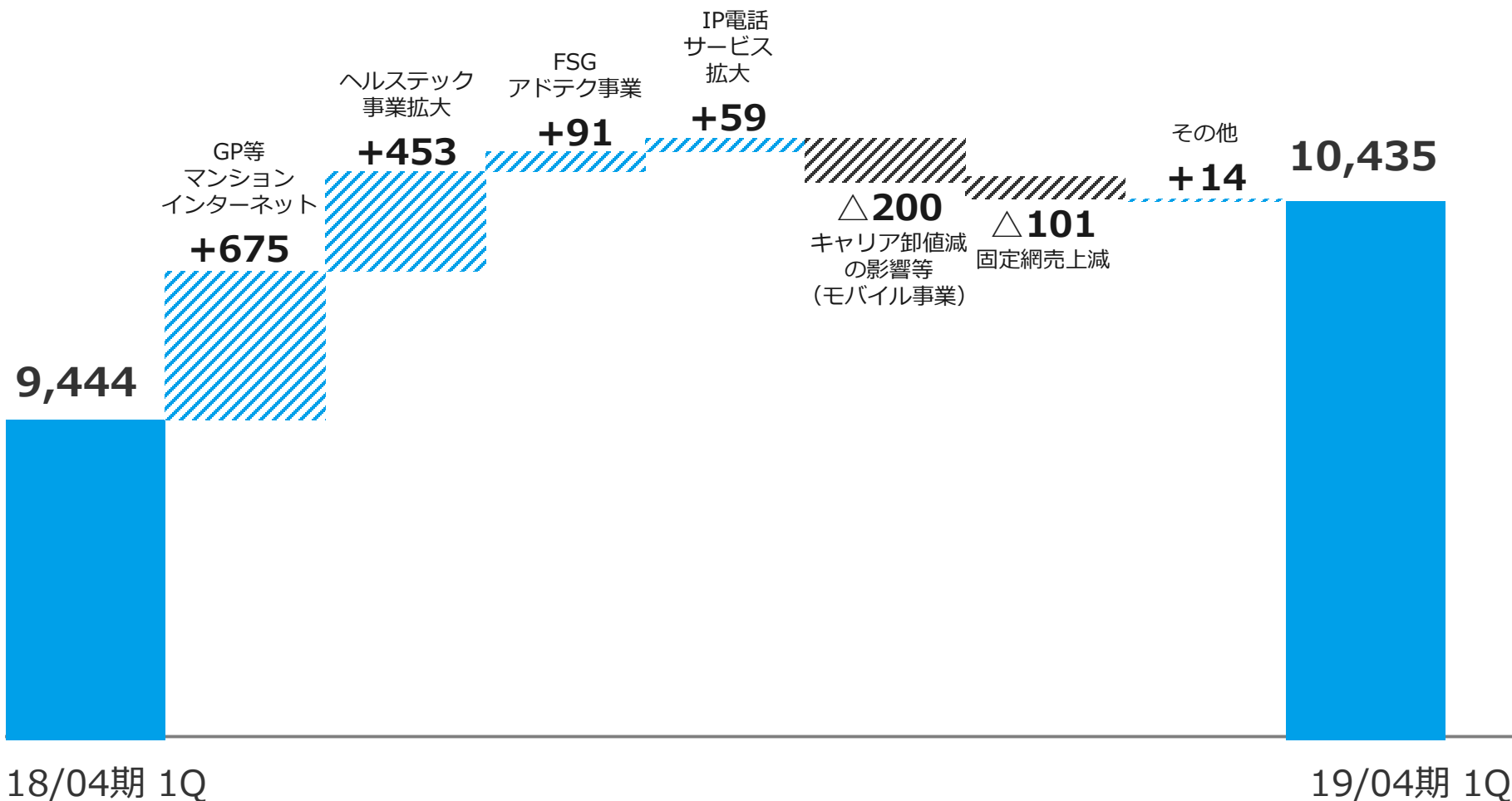
## ブロードバンド事業・ヘルステック事業が増収を牽引



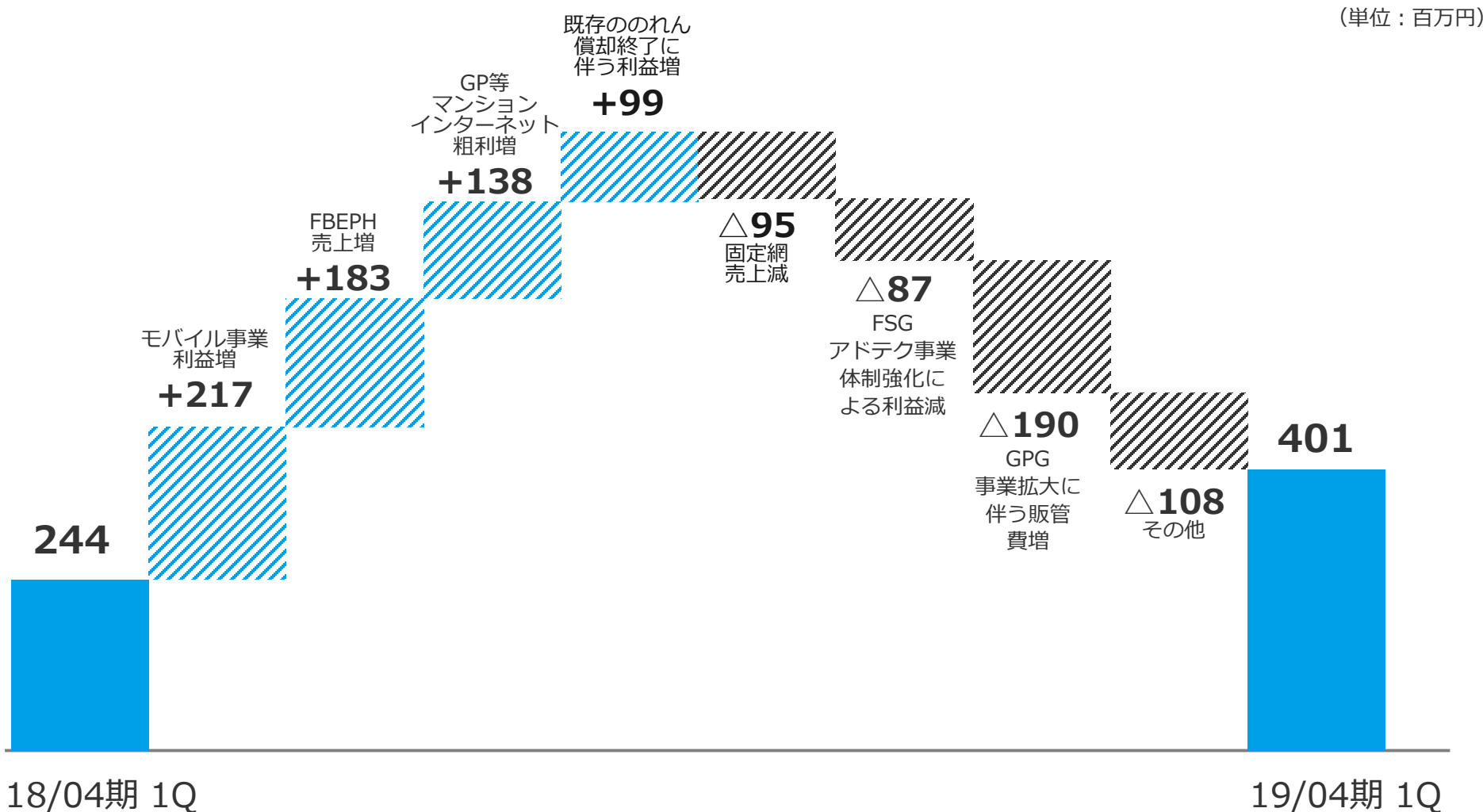
売上高	セグメント損益
<b>ブロードバンド事業</b>	
<b>3,387 百万円</b> YoY +21.0%	<b>272 百万円</b> YoY $\Delta$ 44.0%
<b>モバイル事業</b>	
<b>2,043 百万円</b> YoY $\Delta$ 2.9%	<b>29 百万円</b> YoY +217百万円
<b>アドテクノロジー事業</b>	
<b>4,042 百万円</b> YoY +2.4%	<b>275 百万円</b> YoY $\Delta$ 23.2%
<b>クラウド事業</b>	
<b>406 百万円</b> YoY $\Delta$ 9.9%	<b><math>\Delta</math>9百万円</b> YoY $\Delta$ 7百万円
<b>ヘルステック事業</b>	
<b>634 百万円</b> YoY +249.6%	<b><math>\Delta</math>63百万円</b> YoY +133百万円

## マンションインターネットの順調な推移とヘルステック事業拡大に伴う売上増により前年同期比10.5%増

(単位：百万円)



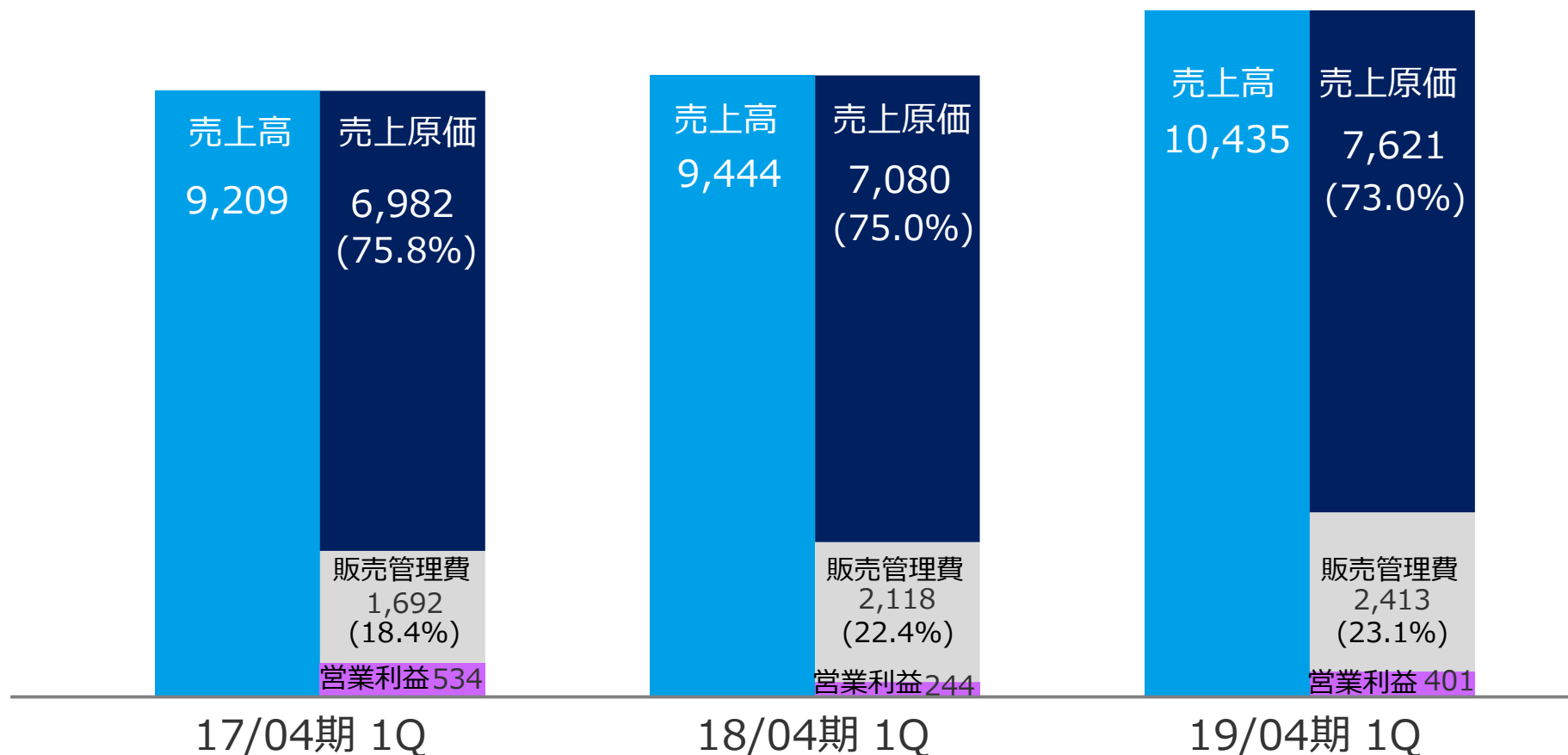
利益改善に伴うモバイル事業の黒字化とFBEPHの順調な成長によるヘルステック事業売上増により前年同期比64.0%増





## 2020年4月期連結営業利益50億を目指し体制強化を進める

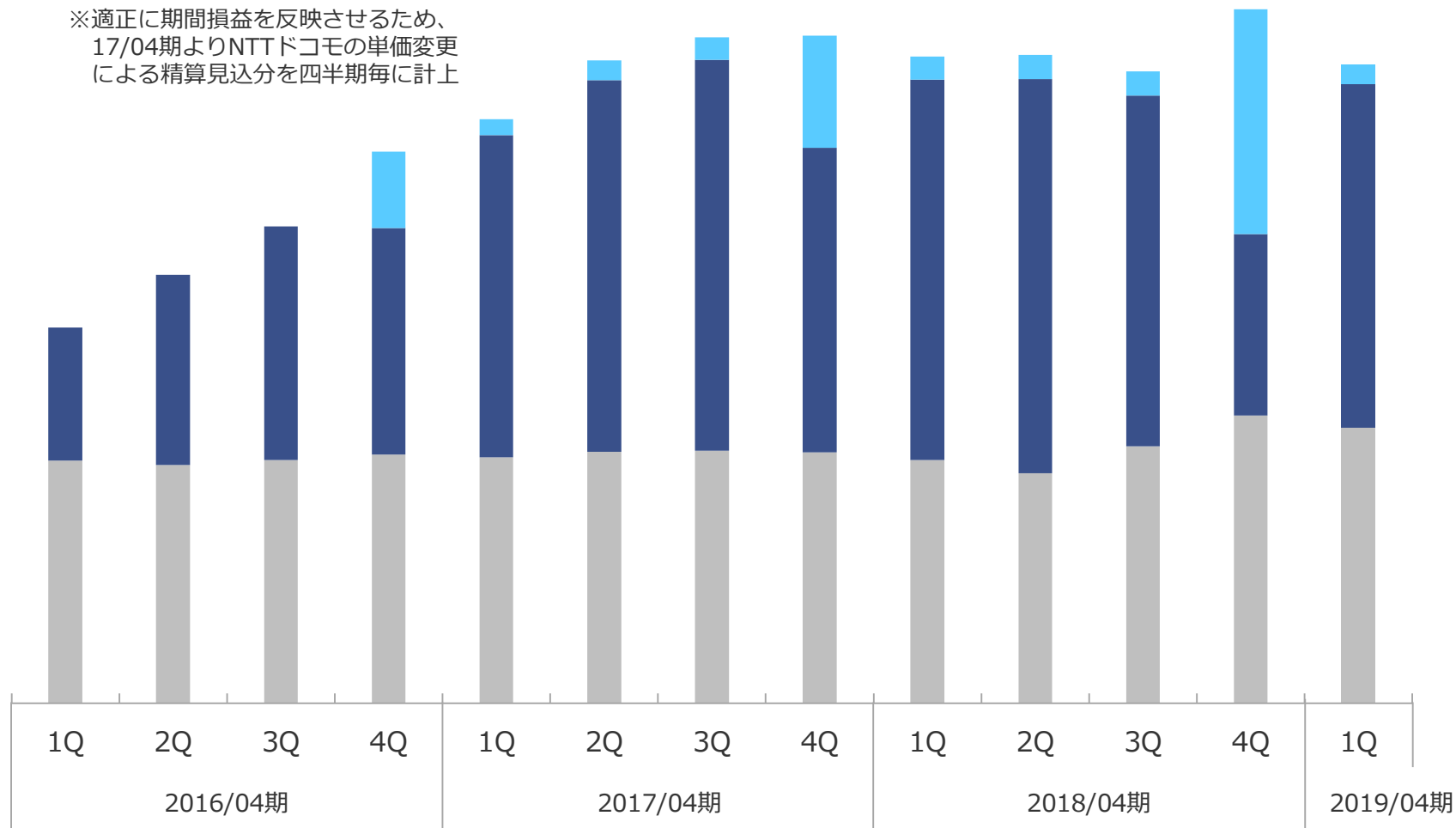
(単位：百万円)



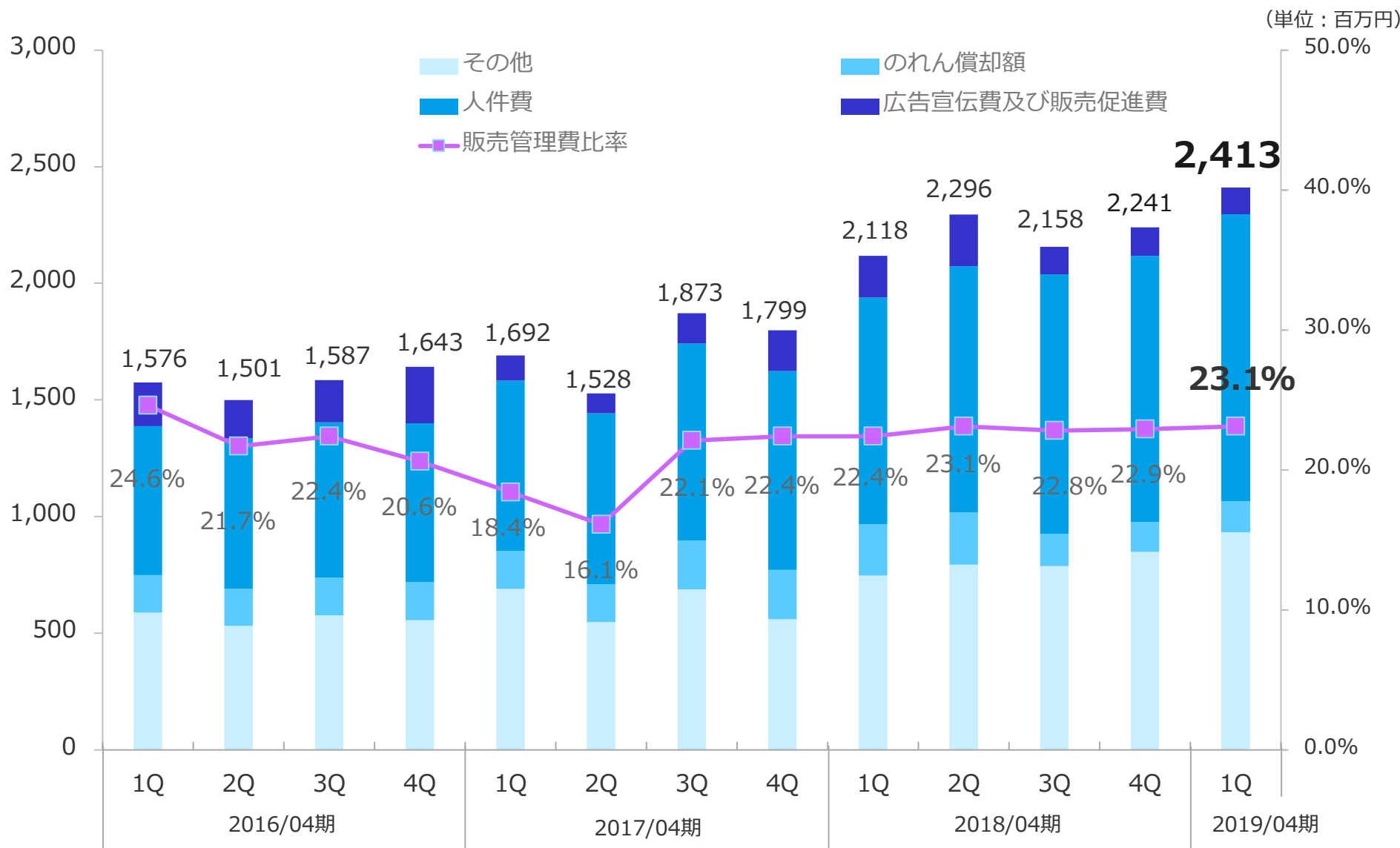
# ネットワーク関連費用推移

- 固定網
- モバイル
- NTTドコモの単価変更による精算分

※適正に期間損益を反映させるため、  
17/04期よりNTTドコモの単価変更  
による精算見込分を四半期毎に計上

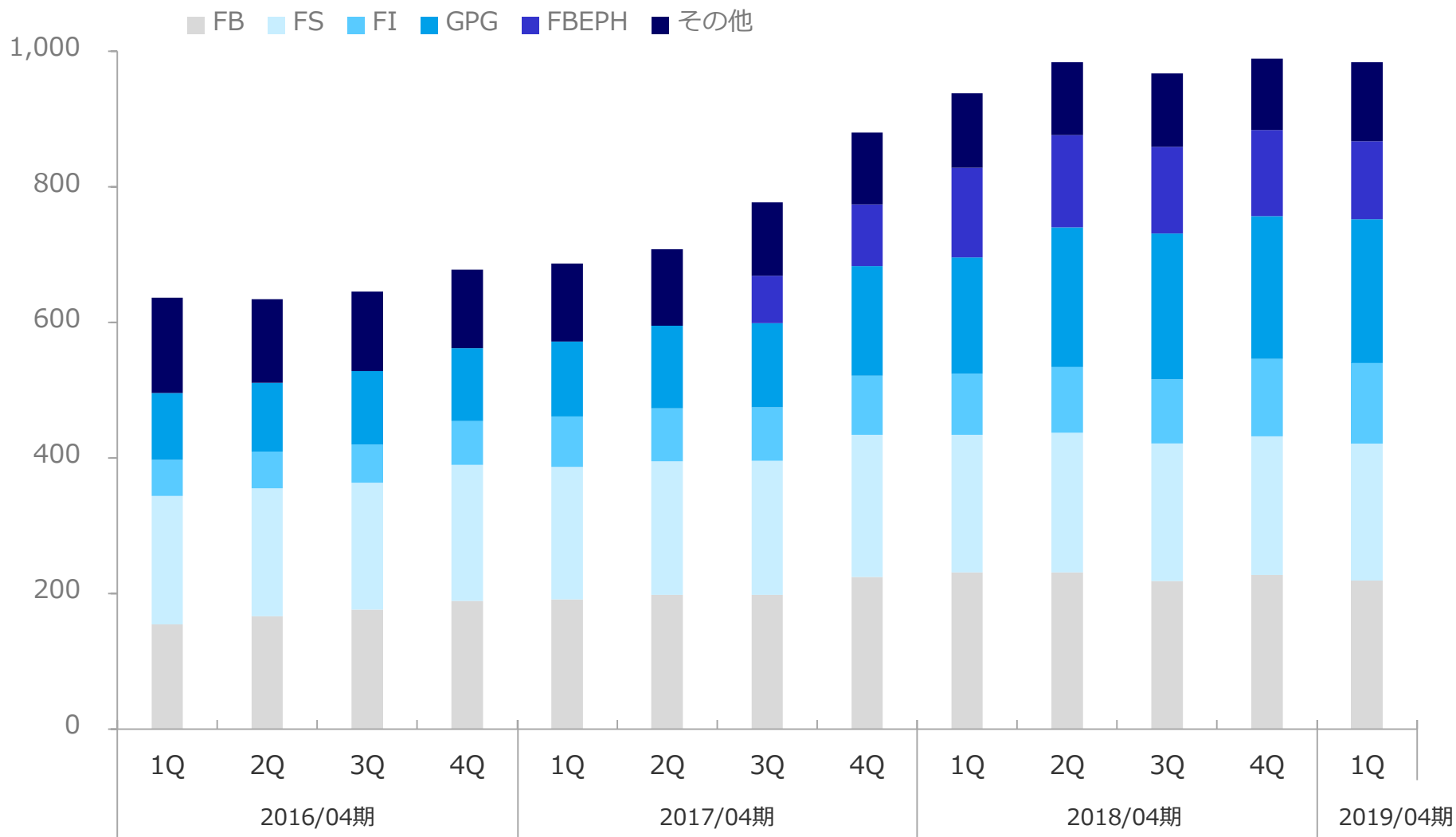


## 人員増に伴う事務所拡張等により販管費増



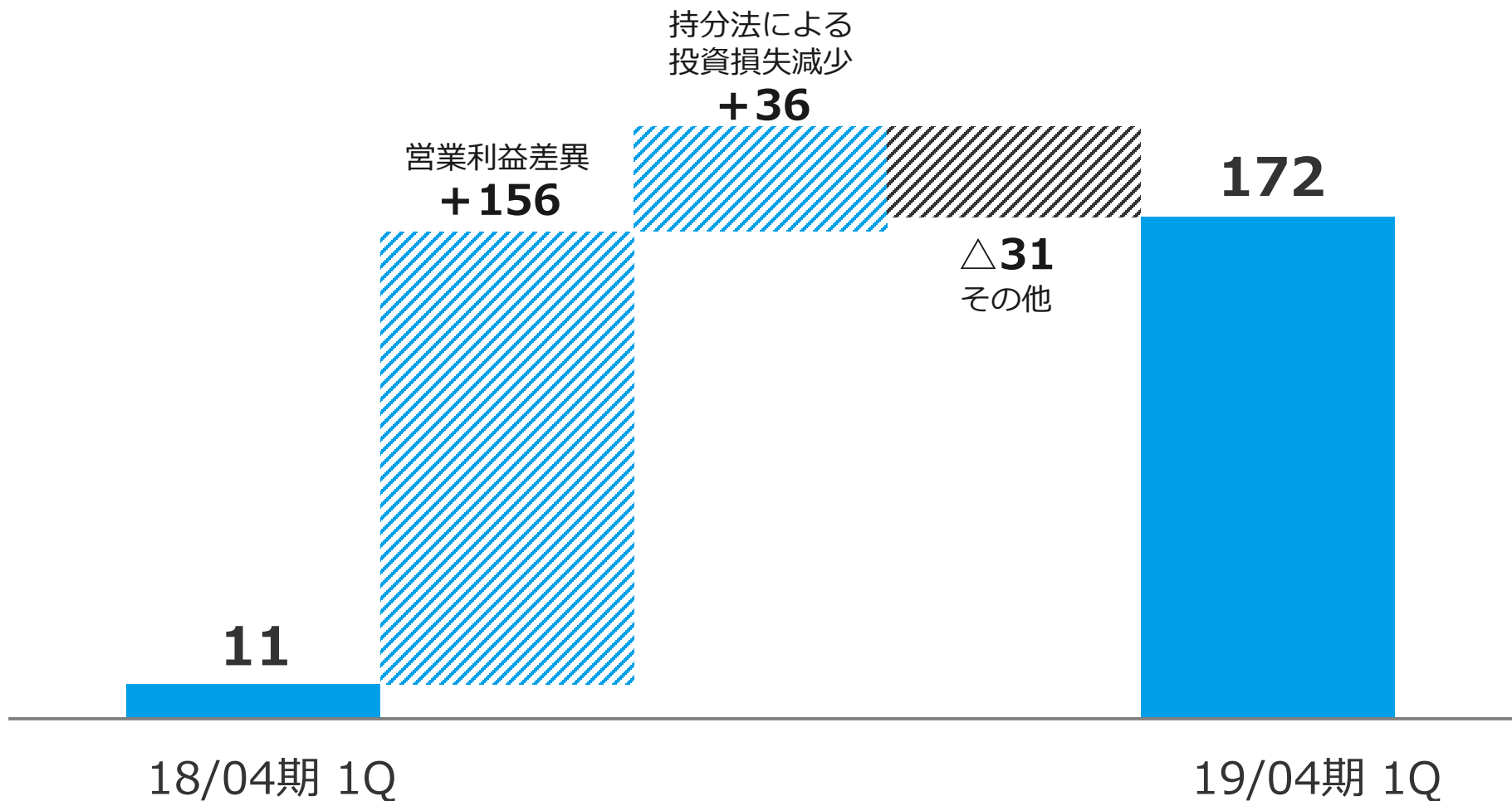
## 事業拡大により人員体制強化を実施

(単位：人)



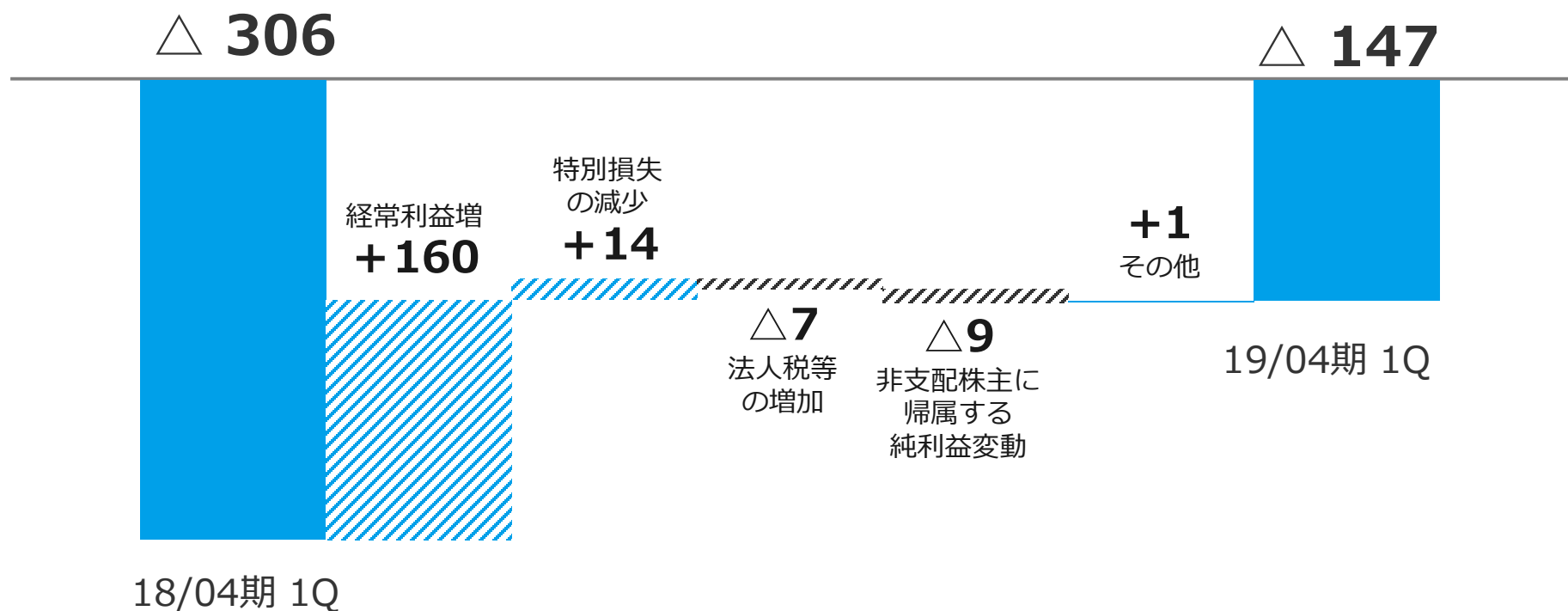
## 営業利益増等により、前年同期比160百万円増

(単位：百万円)



## 経常利益増等により、前年同期比158百万円増

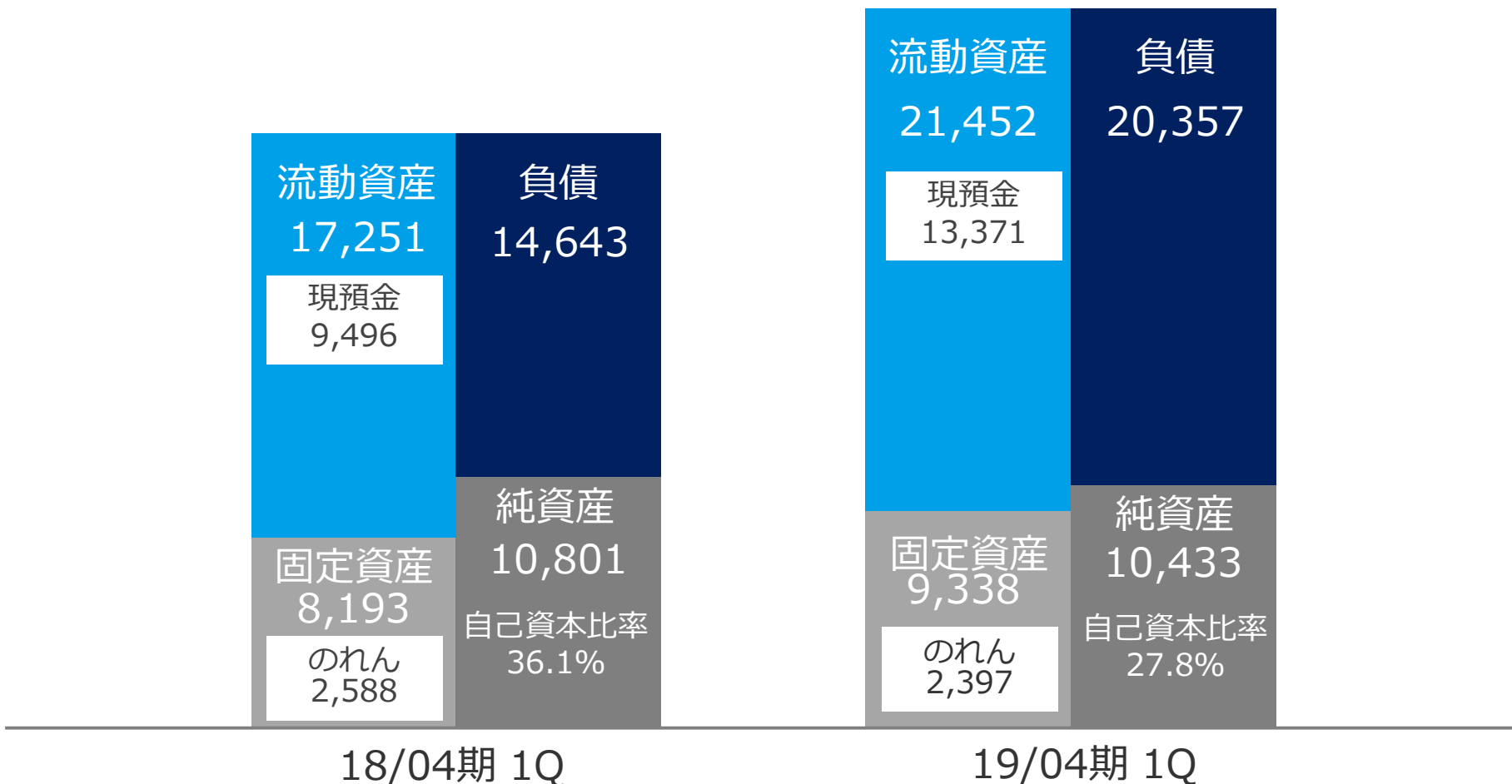
(単位：百万円)



## 現預金40.8%増、のれん7.4%減、純資産3.4%減

さらなる成長に向け予定通り借入れを実行し、手元資金を強化

(単位：百万円)



### 3. 2019年4月期 通期セグメント別業績及び事業進捗

---

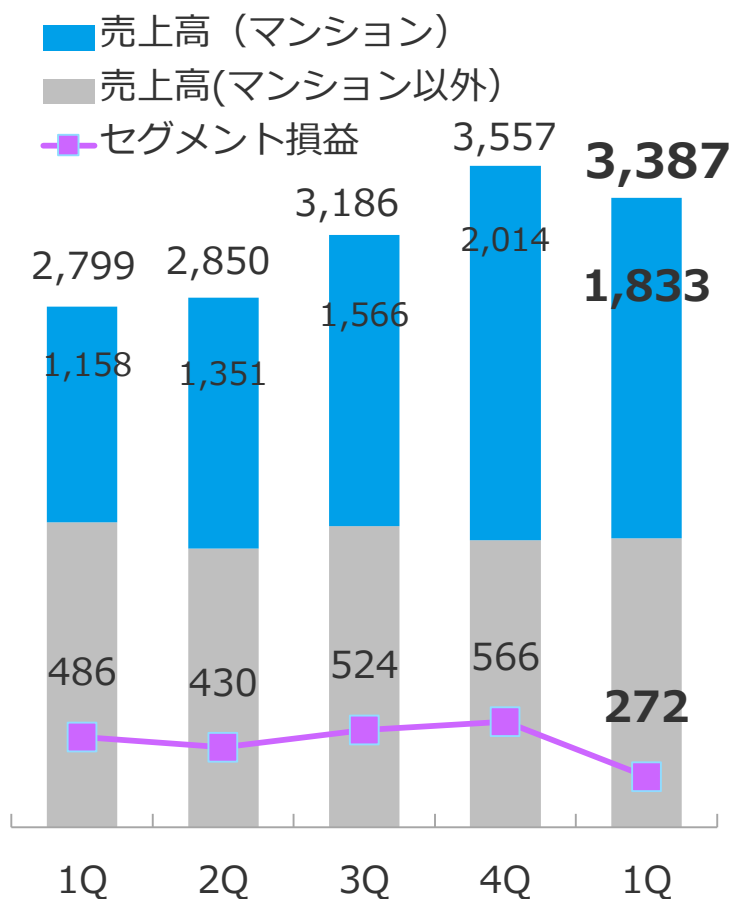


## 前年同期比 売上高21.0%増、セグメント損益44.0%減

マンションインターネットが順調に推移し増収、体制強化の実施により販管費増

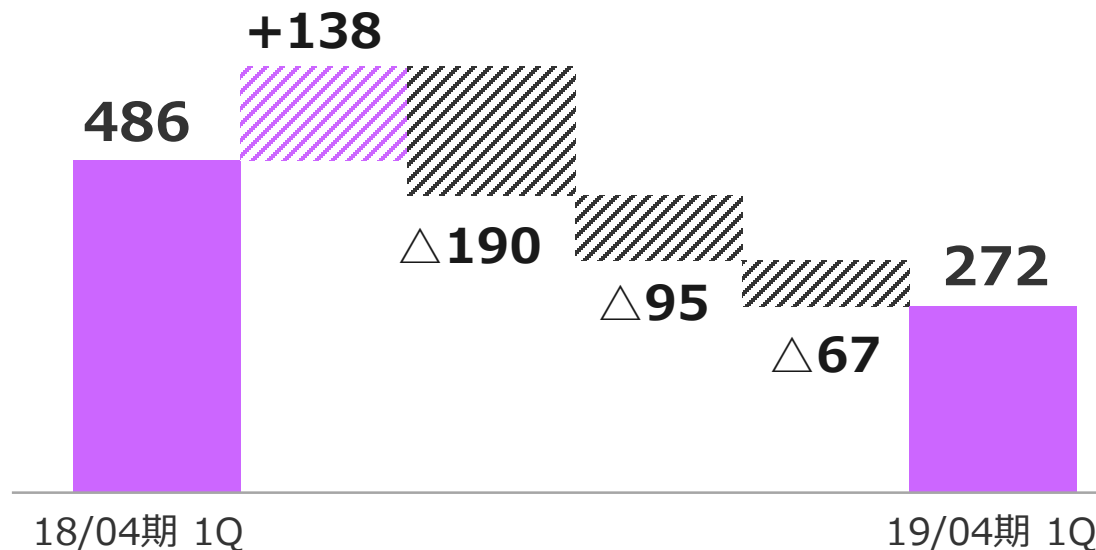
(単位：百万円)

### 売上高・セグメント損益



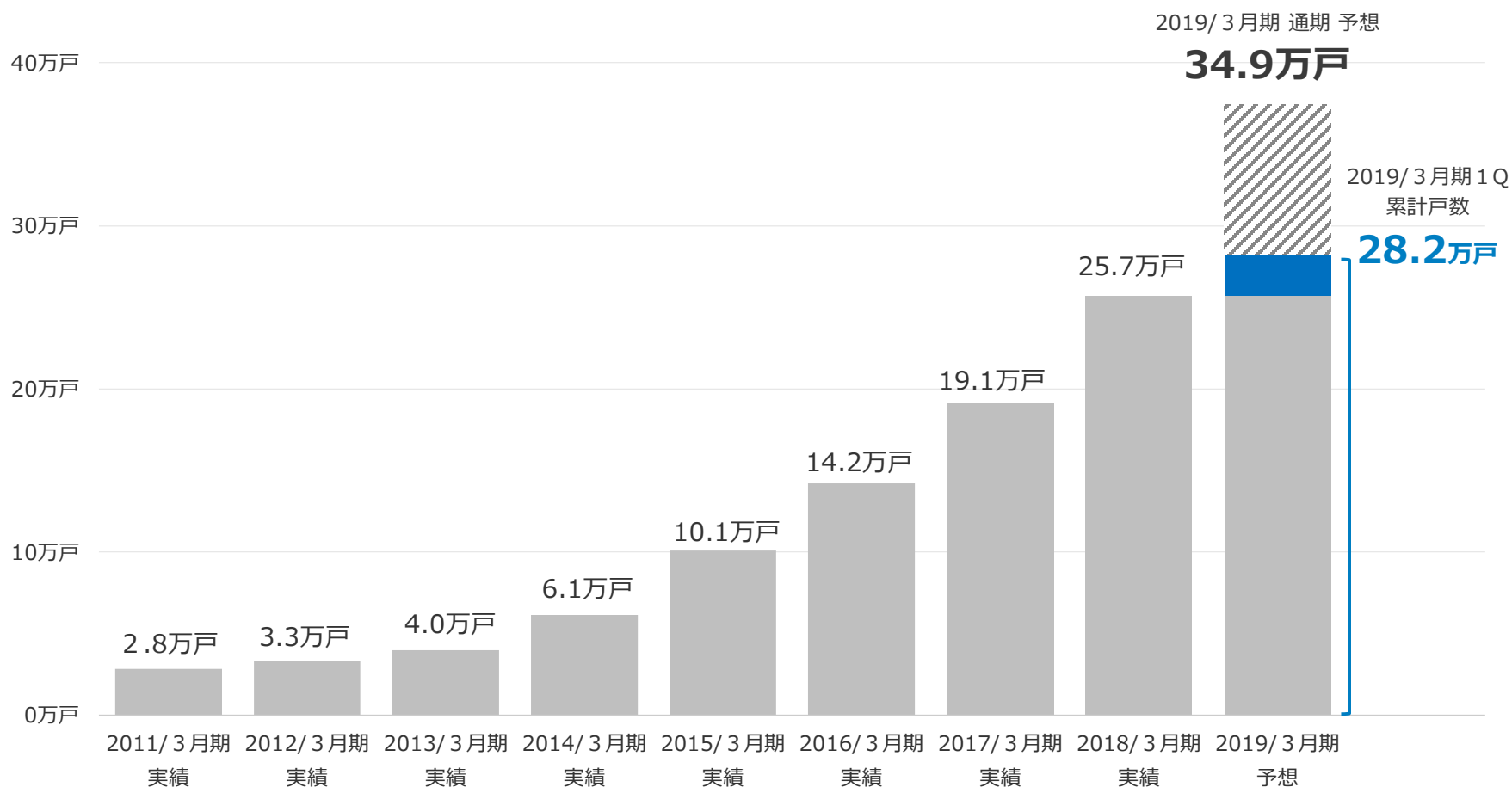
### セグメント損益前期比差異分析

- +138** マンションインターネット売上増
- △190** GPG販管費増
- △95** 固定網売上減
- △67** その他



## サービス提供戸数は前年同期比 68.3%増の 2.5万戸を達成

サービス提供戸数は累計28.2万戸となり、今期予想 34.9万戸に向けて順調に推移



## 不動産TechのIoT戦略に向けて、資本業務提携を実施

### ■ 6月14日プレスリリース：UME、ナーブ、百戦錬磨と民泊で協業

株式会社ユーエムイー（「UME」）、ナーブ株式会社（「ナーブ」）、株式会社百戦錬磨（「百戦錬磨」）と6月15日に施行された住宅宿泊事業法（民泊新法）に合わせ、民泊事業における協業を開始



### ■ 7月11日プレスリリース：コミュニティ・サイト「イオンハウジング × ギガプライズ」をオープン

2018年7月13日より、VR（バーチャルリアリティ）コンテンツのプラットフォームや、スマートライフを実現するIoTプラットフォームサービスなど、最先端のITソリューションを提案するコミュニティ・サイト「イオンハウジング × ギガプライズ」をイオンモール福津にオープン



イオンハウジング × GIGA PRIZE

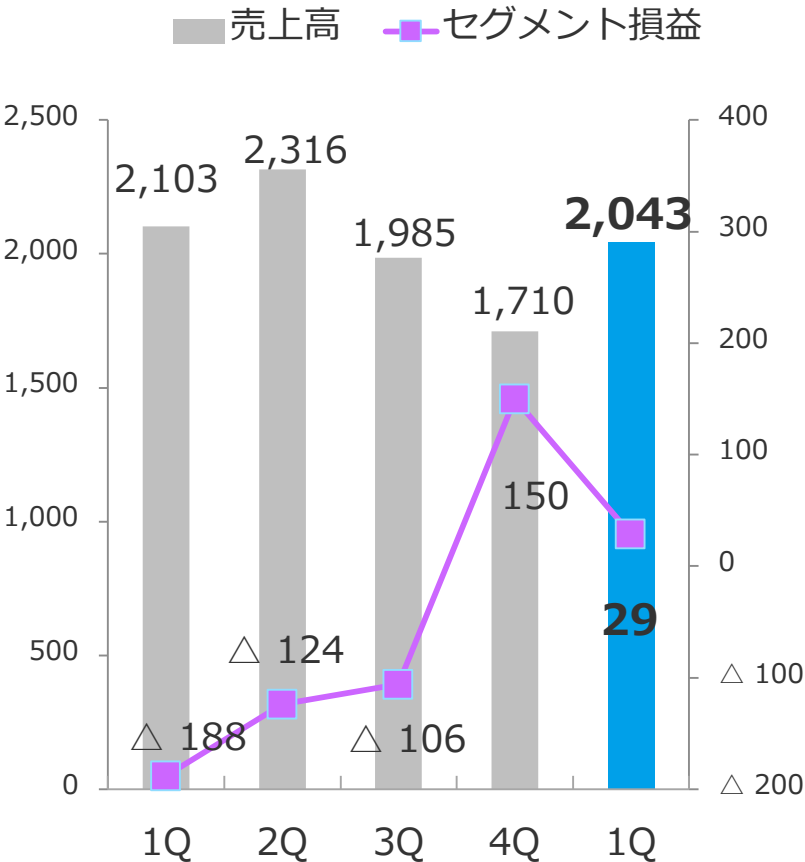


## MVNEサービスやDTI SIMの収益改善等により、前四半期に続き黒字を達成

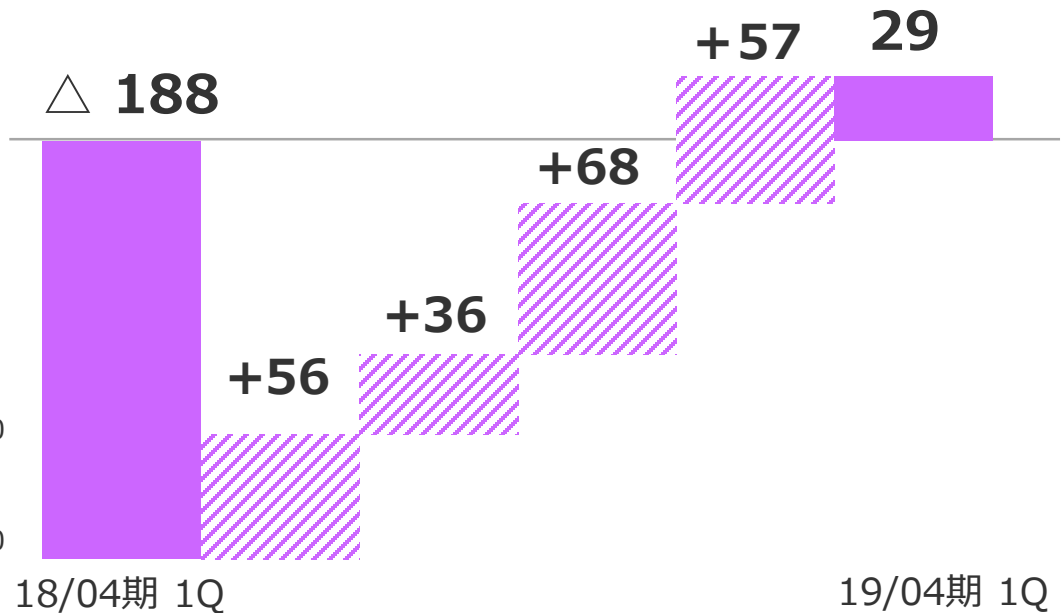
(単位：百万円)

### 売上高・セグメント損益

### セグメント損益前期比差異分析



- +56 MVNEサービス利益増
- +36 IP電話サービス利益増
- +68 DTI 販促費抑制等による利益増
- +57 その他

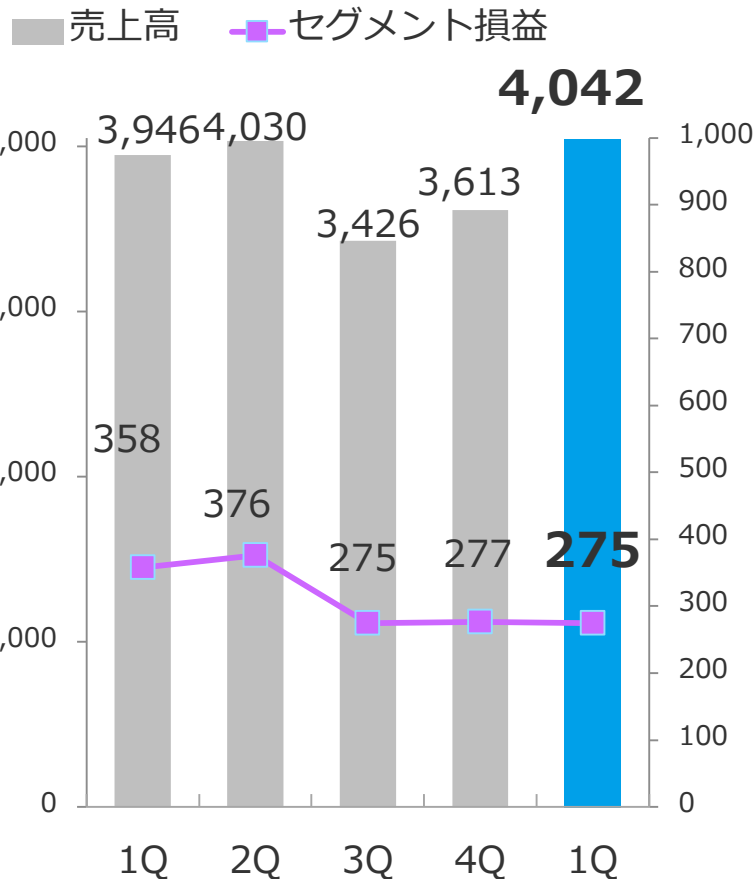


## 前年同期比 売上高2.4%増、セグメント利益23.2%減

インキュベーション関連の人材投資により販管費大幅増

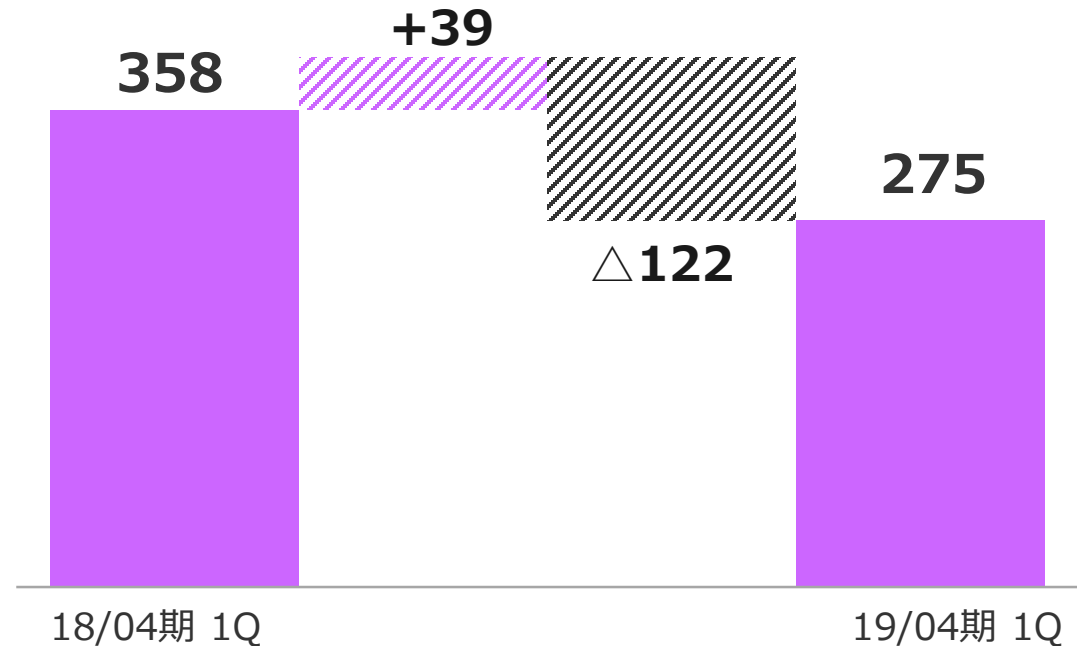
(単位：百万円)

### 売上高・セグメント損益



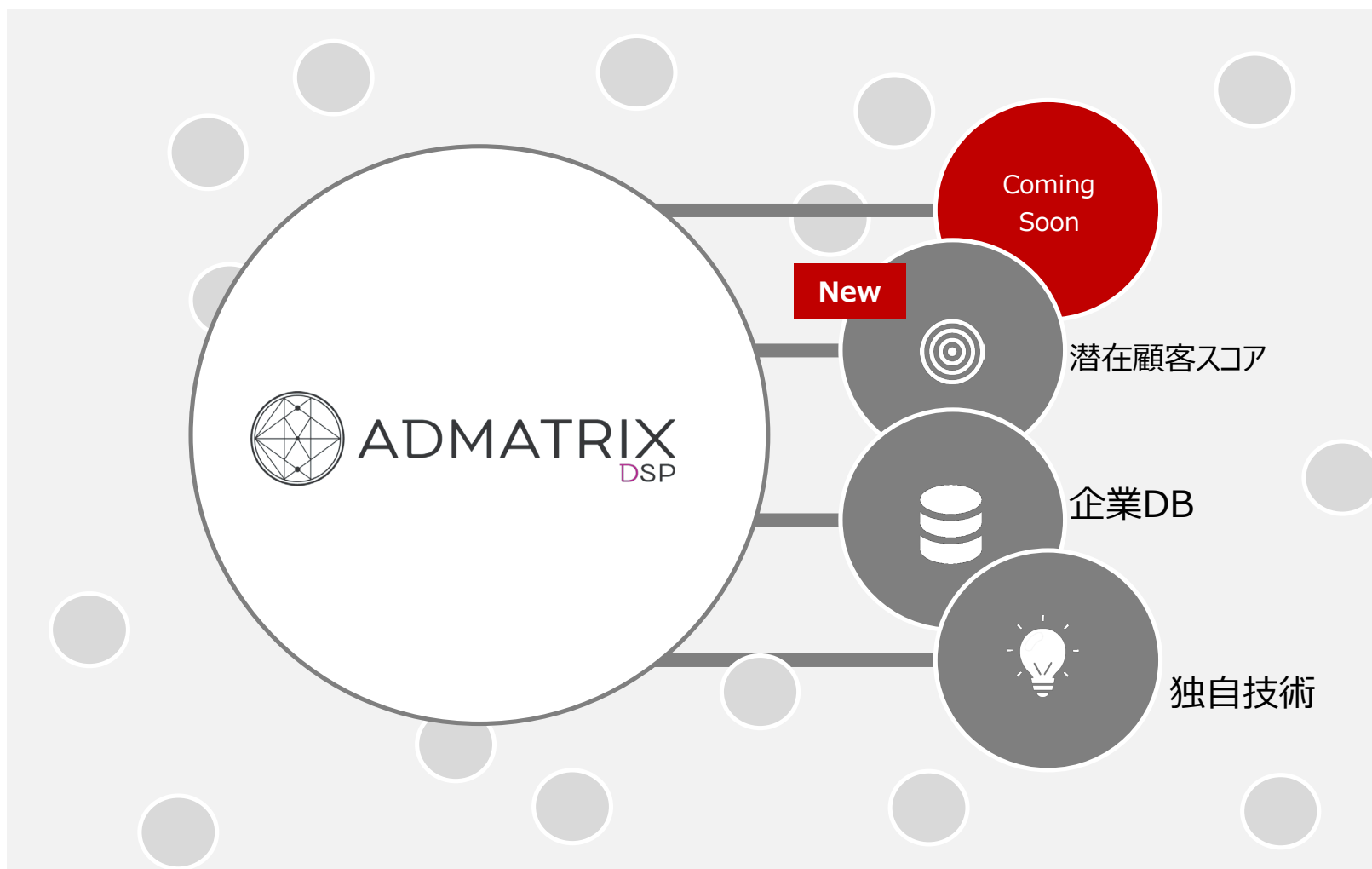
### セグメント損益前期比差異分析

- +39 FSG売上増加に伴う粗利増
- △122 FSG体制強化に伴う販管費増等



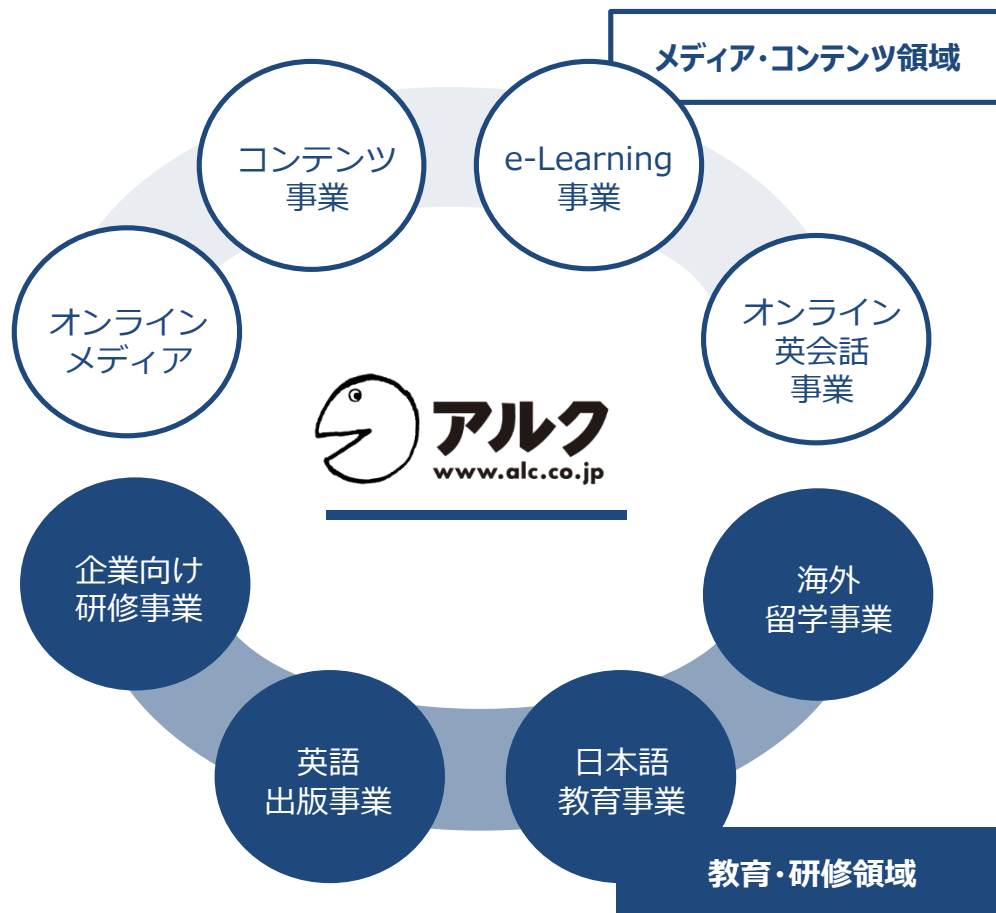
戦略的事業提携によるビッグデータ連携、業界最大級DMP展開を実現へ

潜在顧客スコアを連携し、BtoB支援No1に向け**ターゲティング機能**を強化



## アルク社との戦略的事業提携に向け検討開始

アルク社が有する事業アセットとの相性が良い当グループにとっての絶好の新規領域創出機会



 **freebit**  
毎日、発明する会社



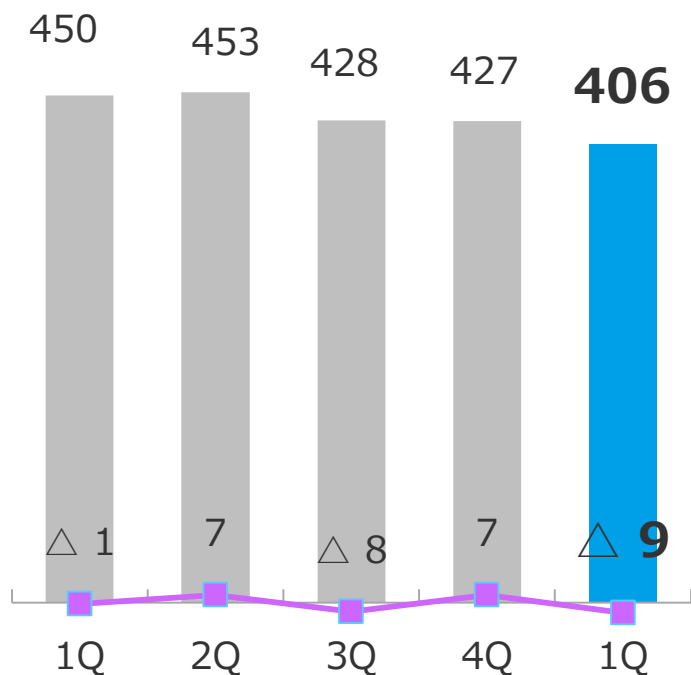
**Full Speed**  
Ad Technology & Marketing Company

## レガシーサービス縮小に伴い減収減益

(単位：百万円)

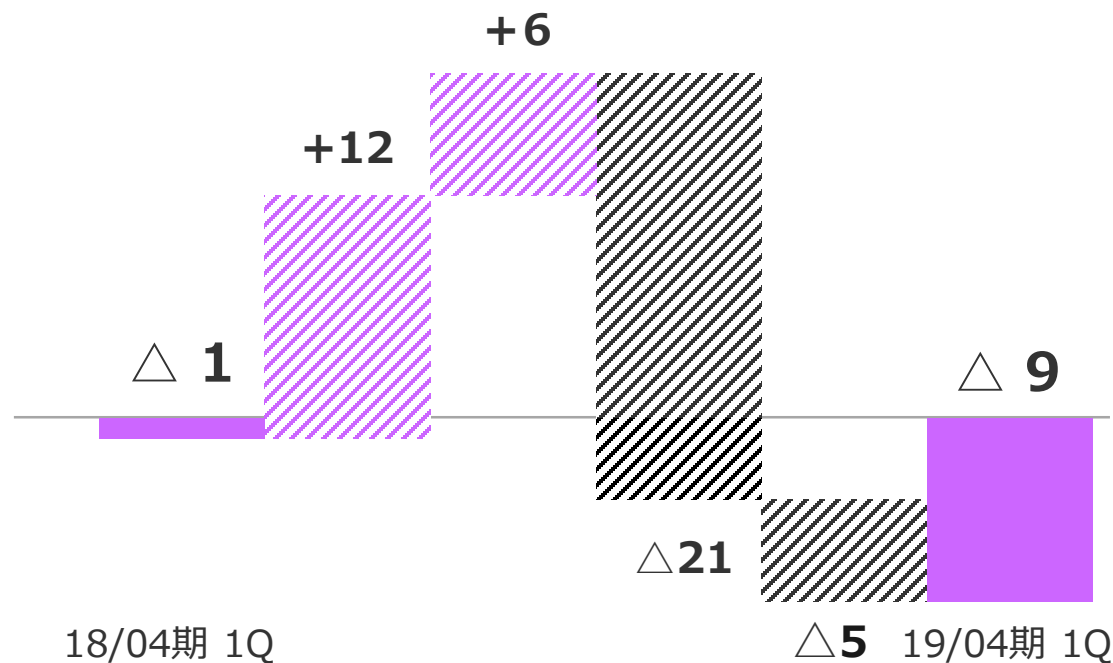
### 売上高・セグメント損益

■ 売上高 ■ セグメント損益



### セグメント損益前期比差異分析

- +12 FBコスト改善による利益増
- +6 その他
- △21 レガシーサービス縮小に伴う利益減
- △5 GPの販管費増等





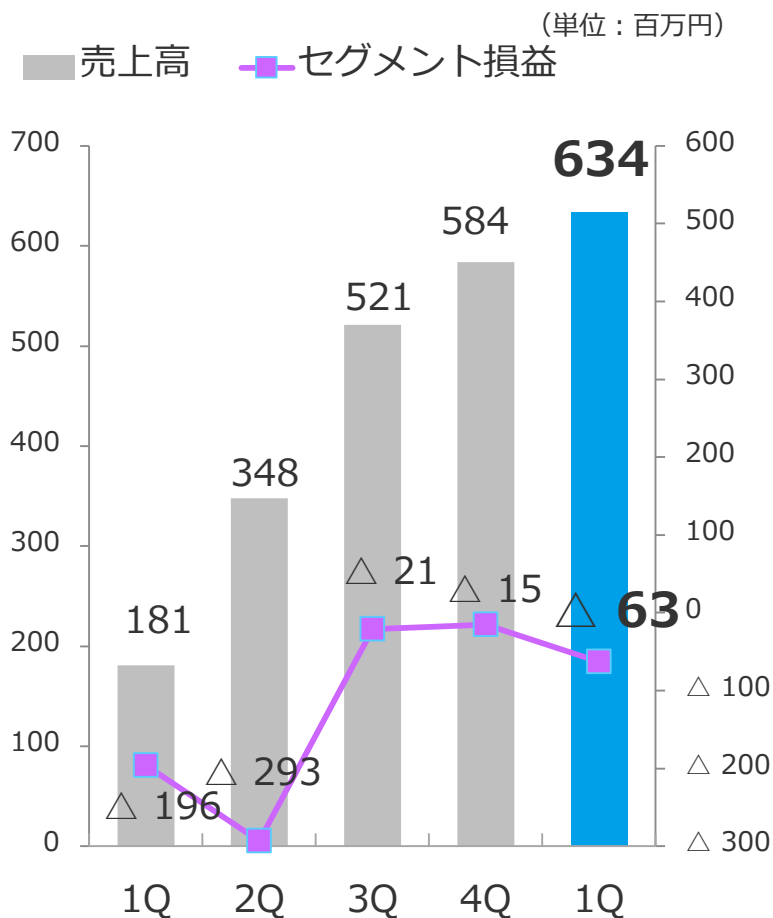
## 事業開始以降売上高は順調に推移

## FBEPHの順調な成長を鑑み、事業拡大に向けた投資を継続

黒字化に向けて、IJKのビジネスモデル転換を実行

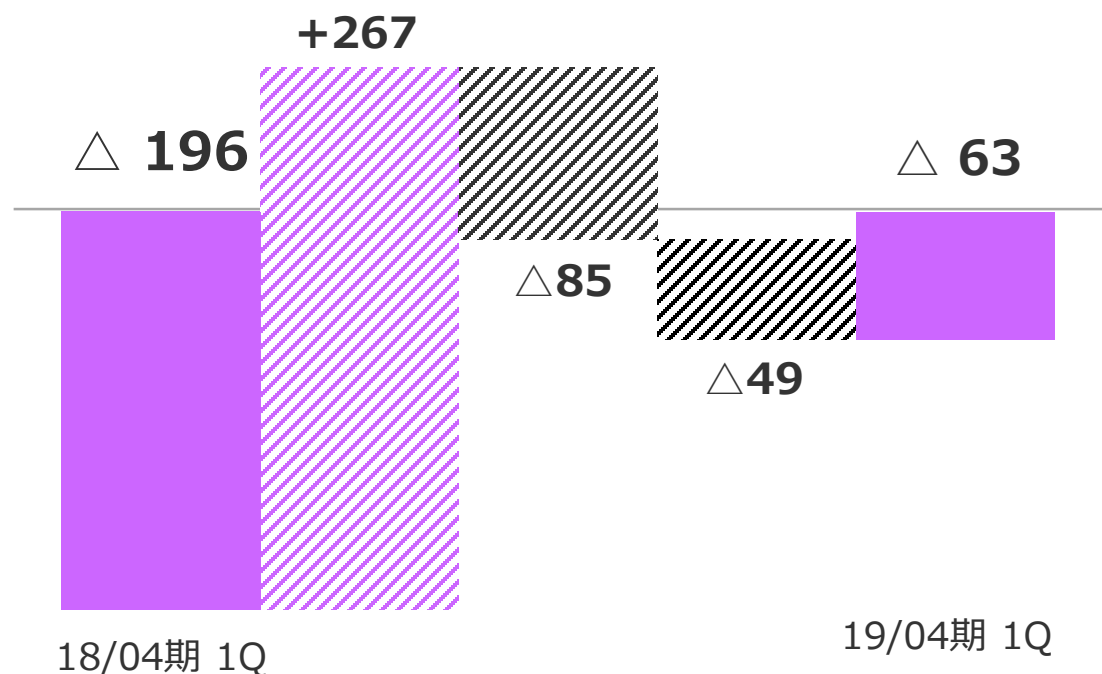
(単位：百万円)

### 売上高・セグメント損益



### セグメント損益前期比差異分析

- +267 FBEPH売上増加に伴う粗利増
- △85 FBEPH体制強化に伴う販管費増
- △49 その他



## EPARKお薬手帳は累計ダウンロード数35万件を突破

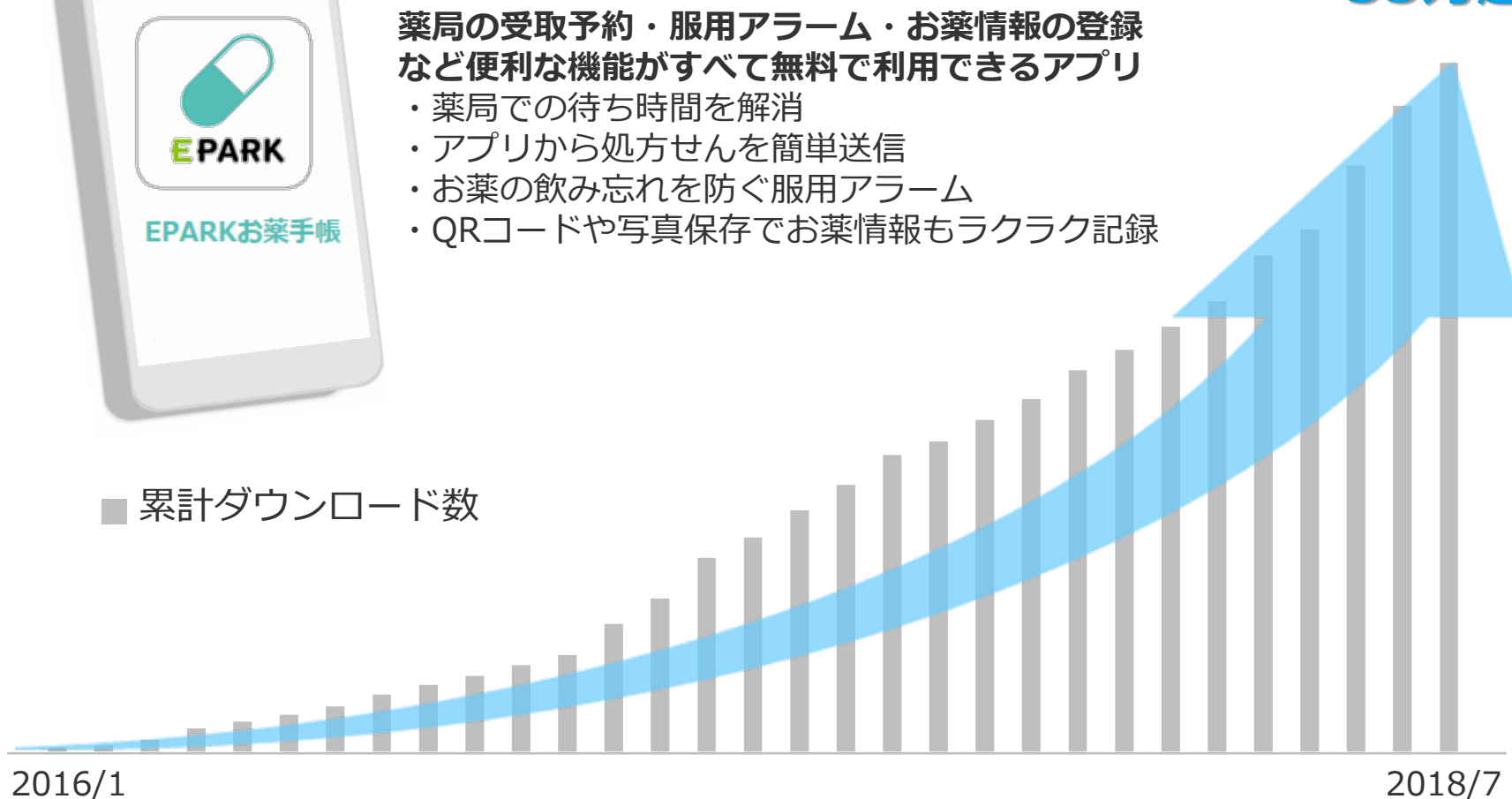


### EPARKお薬手帳

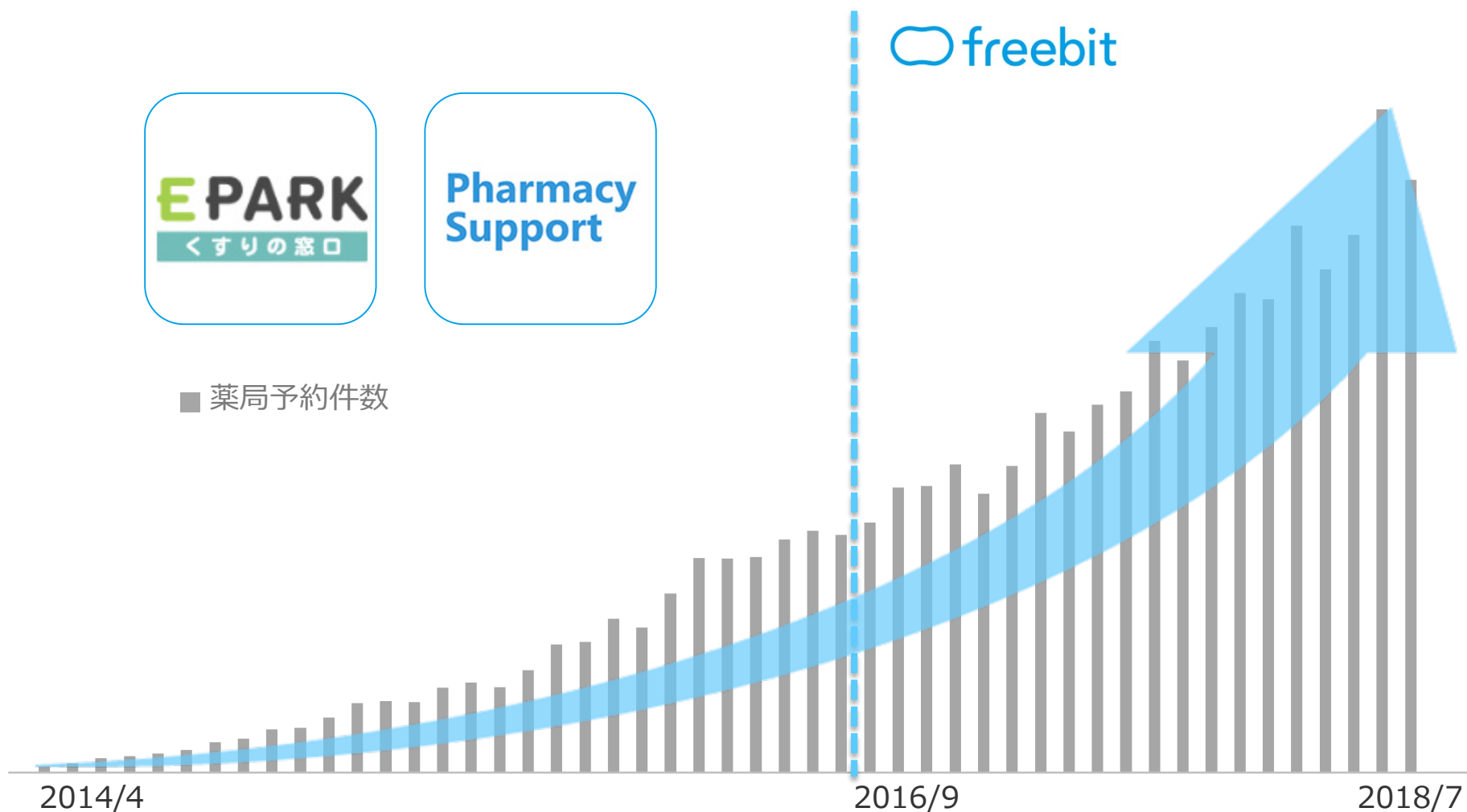
薬局の受取予約・服用アラーム・お薬情報の登録など便利な機能がすべて無料で利用できるアプリ

- ・薬局での待ち時間を解消
- ・アプリから処方せんを簡単送信
- ・お薬の飲み忘れを防ぐ服用アラーム
- ・QRコードや写真保存でお薬情報もラクラク記録

35万超



## 月間薬局予約件数は順調に推移



## 4. 2019年4月期 連結業績予想

---

## ブロードバンド事業

### マンションインターネットの提供戸数増加と更なる売上拡大

- ・提供戸数・売上とも順調に拡大

### 個人向けサービスのユーザー数拡大施策による売上・利益の拡大

- ・IPoE方式によるIPv6インターネット接続サービス「IPv6(IPoE)接続サービス」を発表

## モバイル事業

### MVNEの推進と個人ユーザーの積極的な獲得によるシェア拡大

- ・施策の精査と既存サービスラインアップの再構築を実施

### 付加価値サービスの事業化

- ・「フリービットクラウド セキュリティ SIM」の販売拡大に向けIoT/M2M向け新プラン発表

### 今後の収益に寄与するIP電話サービスのさらなる拡充

- ・サービス拡大を企図し、総務省よりFMC用番号「060-0」の指定を受ける

## アドテクノロジー事業

### 代理店数の増加及び連携強化による顧客拡大

- ・アドテクノロジー関連サービスを戦略子会社「株式会社クライド」に集約

### 自社開発サービスの加速化

- ・ITエンジニア特化型開発企業「株式会社Ruby開発」に出資

## クラウド事業

### クラウドサービスやネットワークセキュリティサービスの拡販

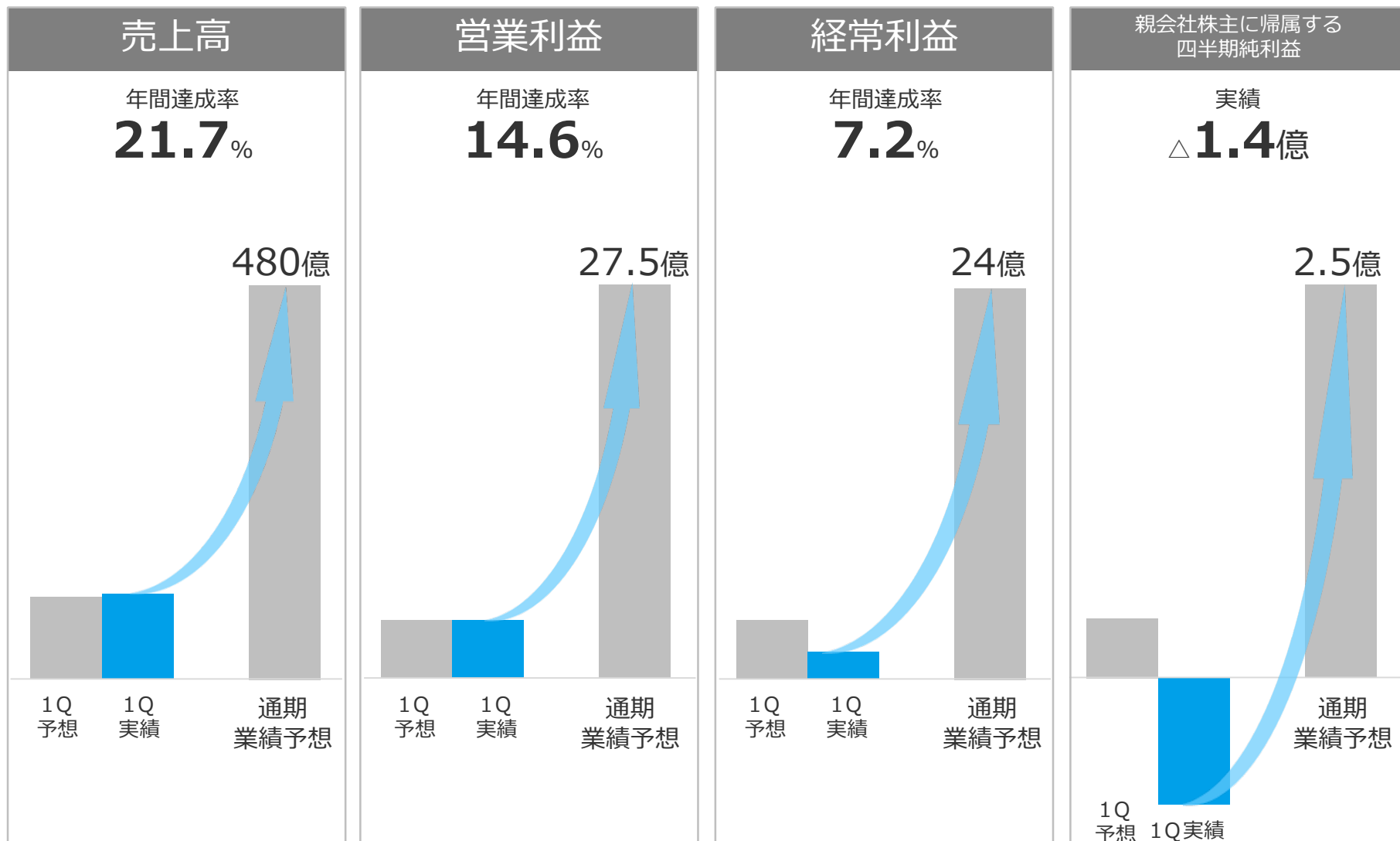
- ・当社グループのクラウド基盤を活かしたプロダクトを順次提供

## ヘルステック事業

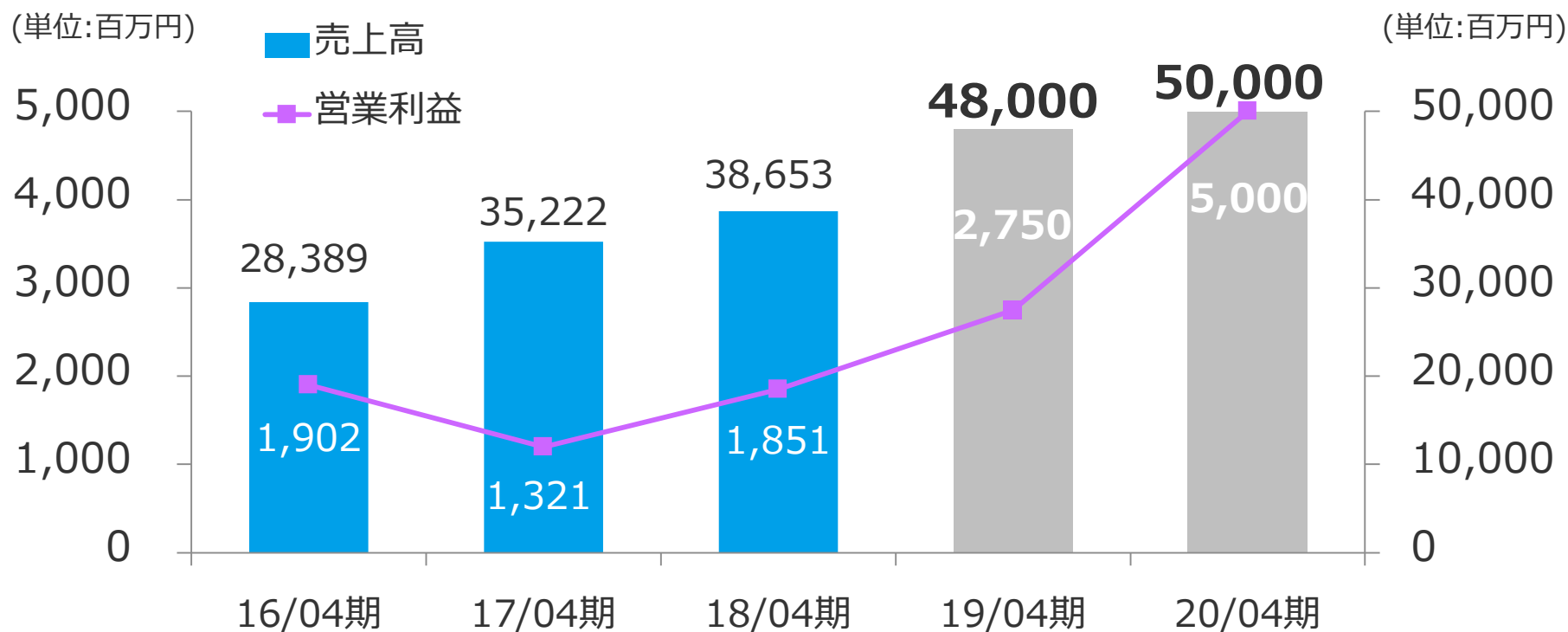
### フリービットEPARKヘルスケアの黒字化の継続

- ・FBEPHのさらなる拡大に向け投資を継続
- ・より一層の事業拡大を目指し、周辺事業（介護領域）においても戦略的投資を実施

## 第1四半期は計画通り進捗



## フリービットグループ 2020年4月期業績目標 連結売上高**500億円**・連結営業利益**50億円**企業を目指す



本資料に記載されている当社の予想、見通し、目標、計画、戦略等の将来に関する記述は、本資料作成の時点で当社が合理的であると判断する情報に基づき、一定の前提（仮定）を用いており、種々の要因により、実際の業績はこれらの予想・目標等と大きく異なる可能性があります。本資料は、当社の事業戦略の説明資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

＜IR及び本資料に関するお問い合わせ＞

フリービット株式会社  
グループ経営管理本部 IR担当  
Email [freebit-ir@freebit.net](mailto:freebit-ir@freebit.net)  
WEB <https://freebit.com/>





毎日、発明する会社

※ すべてのブランド、製品名、会社名、商標、サービスマークは各社に権利が帰属します。